

もっと知りたい!!

FILE 08

病院のこと・先生のこと。

医療法人社団 丸善会

ながいこどもクリニック

小児科
小児神経内科



〒763-0053 香川県丸亀市金倉町1440-8
TEL 0877-43-2225
URL <https://www.nagai-kodomo.com>



ながいこどもクリニック
院長

永井盛博 先生

病院のココが自慢!

感染症対策としての四つの個室診察

患者さんと接する時に大切にしていることは?

丁寧な説明

医師になろうと思ったきっかけは?

こどもの頃に診察してもらった小児科の先生に憧れて

もし、医師になっていなかったら?

本屋

先生が実施している健康法は?

十分な睡眠と散歩

▼ 当院に期待すること

小児医療の砦として、引き続きよろしくお祈いします。

どっち?

犬派

猫派

朝食は

和食

洋食

休日は

インドア派

アウトドア派

好きなもの(こと) Best3!

- 1 温泉
- 2 ビール
- 3 ゲーム

フリースペース

香川小児病院時代から、色々な先生方に変えてお世話になりました。今後ともよろしくお祈いします。



独立行政法人 国立病院機構

四国こどもとおとなの医療センター

〒765-8507 善通寺市仙遊町 2-1-1 TEL 0877-62-1000

<https://shikoku-mc.hosp.go.jp>

交通機関 ▼善通寺 I.C より車で 5 分

▼ JR 土讃線善通寺駅下車徒歩 25 分



四国こどもとおとな



K O I F U M I

こころを込めて

いつも

ふれあう医療を

みなさんと

2025.04

vol.08

独立行政法人 国立病院機構

Shikoku Medical Center for Children and Adults*

四国こどもとおとなの医療センター

<https://shikoku-mc.hosp.go.jp>



地域連携の強化

四国こどもとおとなの医療センター 院長 前田 和寿

4月になり、医師をはじめ約100名が当院の新たな職員となりました。最初の挨拶で私が職員にお願いしたことは、テレワークやWEB会議など、非接触型のコミュニケーションが進み、医療・看護の世界においても、オンライン問診・診療など、医療DXの活用が進みますが、私たちにとって重要なことは、対面で患者さんだけでなく、職員同士、地域の先生とのコミュニケーションを行っていただきたいことをお願いしました。コミュニケーションを行うことで、より円

滑な関係を築くことが非常に重要と思っています。さて、先生方に一点ご報告があります。長い間、消化器内科の医師不足で地域の先生方には大変ご迷惑をおかけしていましたが、この度本年4月より、新たに香川大学の小原教授のご尽力により、医師2名を派遣して下さることになりました。今後は5名体制(1名は休職中)で診療を開始しますので何卒よろしくお祈いします。

新機器の紹介

四国こどもとおとなの医療センター 整形外科医長 畠村 将志

地域の先生方におかれましてはいつも患者さんをご紹介いただき、心より御礼申し上げます。また平素より当院の診療にご理解とご協力を賜り、大変感謝しております。

当院では、地域の高齢化と人工関節認定医の赴任により、人工関節置換術の手術件数が増加しています。地域の患者さんに、安全で質の高い手術を提供できるよう、日々アップデートを重ねながら診療体制を強化しております。

この度、精密で確実な手術を実現するため、2025年3月より Stryker社製の CT画像を用いた人工関節置換術用ナビゲーションシステム(股関節・膝関節)を新たに導入致しました。通常手技や従来使用していた簡易ポータブルナビゲーションによる手術と比較し、CT画像を活用した詳細な術前計画と術中の正確なインプラント設置が可能となり、手術の精度と再現性が高まり術後の機能回復や長期成績の向上が期待されます。

特に膝関節については、最新型のナビゲーションシステムが採用となります。このシステムは、人工関節手術支援ロボット「MAKO」を踏襲したものであり、骨を処理するのがロボットではなく人間の手で仕上げる点が違いとなります。

近年、整形外科の人工関節手術を安定して行うためにはコンピューター支援技術が有用であるとされており、当院で

も以前よりコンピューターシステムの導入を検討してきました。「CT画像をベースとする出来る限り正確なシステムでかつ、最終的に人間の目と手で確認を行える」ことを重視し、股関節・膝関節の両方で同様の質と確実性を得られるよう本ナビゲーションシステムを導入致しました。

また2025年6月より1回、香川大学整形外科教授・石川正和先生の膝関節専門外来が開始となります。膝関節でお困りの症例がございましたらご紹介頂ければ幸いです。

患者様一人ひとりに対し、より良く確実な医療を提供することを最優先に考えております。今後も地域の先生方と連携し、患者さんに最善の治療を届けられるよう努めてまいります。下肢の人工関節手術や関節疾患に関するご相談がございましたら、是非ご紹介下さい。今後ともご助言お力添えを賜りますようよろしくお願い申し上げます。



整形外科

医師の働き方改革への対応に 苦慮しつつも患者さん中心の医療に 邁進しております

四国こどもとおとなの医療センター

骨運動器センター部長 佐々貴啓



いつもありきたりの紹介では面白くないのではないかと考え、美辞麗句を排除した紹介をさせていただきます。当院は2013年に香川小児病院と善通寺病院（ともに国立病院機構）が統合した市中病院であり、2023年の整形外科手術件数は894件でした。常勤の整形外科医は7名であり、現在は全員が整形外科専門医です（平均年齢48.9歳）。Subspecialityの内訳としては、脊椎外科医2名、人工関節専門医1名、小児整形2名、一般整形外科2名（小生を含む）です。当院での外傷症例に対する診療体制を、2023年のデータを参考にして疾患別に提示させていただきます。

【脊椎外傷】 13例の脊椎固定（+除圧術）が緊急または準緊急手術として施行されていました。これはひとえに東野副院長と川崎医師の尽力の賜以外ありません。

【開放骨折】 原則として一期的内固定は行わず、damage controlとして洗浄デブリと創外固定術にとどめる方針としています。非整形外科専門医が初療にあたった場合には、2007年の赴任以来ほぼ全例小生が初回手術の介助にあたってきました。

【大腿骨近位部骨折】 2023年度の手術待機日数は平均1.5日でした。153件の手術症例のうち、81%が受傷後48時間以内に手術を施行されており、日本整形外科学会の調査では本邦での平均待機日数が4日であることからわかりいただけるように本骨折を緊急疾患として対応しております。

【骨盤骨折】 当院ではTAE（経動脈的塞栓術）などの血管内治療が可能な医師が常駐していないため、extravasation（血管外漏出）が判明した場合には三次救急病院へ搬送依頼しています。なお難易度の高い寛骨臼骨折については骨盤骨折専門医を外部より招聘し手術加療をおこなっております。また近年では股関節専門医である鳥村医師が待機的に一期的人工股関

節置換術も施行しております。

【脛骨高原骨折】 AO分類41Cのいわゆるbycondylar fractureについては閉鎖骨折であってもすべて創外固定を立て、wrinkle signの出現を待ってから最終固定に至るstaged surgeryの方針で治療にあたっております。

【足関節骨折】 脛骨高原骨折と同様に、閉鎖骨折であっても骨折型が複雑な場合や、軟部組織の状態によっては初療医の判断にて適宜創外固定を行い、staged surgeryの方針で治療にあたっております。

【軟部組織損傷】 植皮、皮弁およびVACについては常勤の形成外科医に依頼しています。

【手外傷】 再接着術を除く外傷については手外科医である飛梅医師を中心に全員で取り組んでおります。

【小児外傷】 横井医師と飛梅医師が県内から紹介されてくる骨折症例（肘関節周囲が最多）を中心に治療にあたっております。

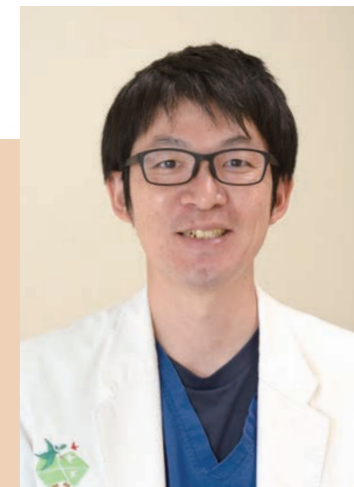
当院はいわゆる2.5次救急病院であり、重度外傷疾患に対応困難です。よって自施設の戦闘力を冷静に評価したうえで外傷診療と治療を行うことが肝要であると考えております。香川県は日本最小面積の県であるがゆえに患者搬送においてはメリットと考えられますので、緊急性が高く高度医療を要すると診断された外傷症例については三次救急病院へのASAPでの紹介を若手医師には教育しています。また各種の外傷コースやcadaver trainingへの参加を勧めており、on the job trainingでは不足しがちな理論的教育を補完できると考えております。マンパワー不足は否めず、特に副院長（整形外科医師）は過酷な仕事量です。地域の先生方とタスクシェアしつつ、限界集落化しつつある中讃医療圏の維持に貢献できればと思ひ日々の診療にあたっております。

新生児内科

赤ちゃんの健やかな未来のために

四国こどもとおとなの医療センター

新生児内科 杉野政城



平素よりお世話になっております。

四国こどもとおとなの医療センター新生児内科の杉野政城です。

当院では新生児医療の発展と向上を目指し、臨床研究に積極的に取り組んでおります。特に香川大学小児科と密接に連携し研究を進めており、大学にある機器を用いて様々な研究を行っています。また、当院は香川大学と連携大学院の協定を結んでいるため、社会人大学院生として日常診療を行いながら大学院で学び、研究を行う医師も在籍しています。科研費や各種研究助成金の獲得、国際学会での発表、論文投稿などを通じて研究成果を広く発信しています。

現在、当院で取り組んでいる主な研究テーマは以下の通りです。

1. 新生児黄疸に対するグリーンLEDによる光療法の有効性

新生児黄疸の治療において、グリーンLEDを用いた光療法の有効性を研究しています。従来の青色光と比較し、より効果的かつ安全な治療法であることを広めるために活動しています。(Kuboi T et al. Pediatr Int. 2019)

2. 精度の高い血糖測定方法の開発

新新生児の血糖値管理は極めて重要ですが、従来の測定方法にはいくつかの課題があります。そこで、より精度が高い血糖測定方法を開発することを目指してきました。これは四国4県で多施設共同研究とい

う形で論文化しました。(Kuboi T et al. Ann Clin Biochem. 2025)

3. 未熟児無呼吸発作に対するカフェイン治療の安全性評価

未熟児無呼吸発作の治療に広く使用されているカフェインの安全性について、血中濃度を測定し研究を行ってきました(Sugino M et al. Sci Rep. 2023)。近年はストレスマーカーとの関連を調査しており、特に唾液中コルチゾール、さらには心拍変動解析による自律神経機能との関連性を調査しています。これにより新生児におけるカフェイン療法の安全性を評価すること、更には様々な治療が新生児に安全かどうかを評価するスケールを確立することを目標としています。

地域の皆様には当院で出生した児、NICUを退院したこどもたちが多大にお世話になっております。その中には様々な問題を抱える児が少なくありません。週数が若い早産児ほどその傾向が強くなります。私たちは、これらの研究を通じて新生児医療の質を向上させ、一人ひとりの赤ちゃんに健やかな未来を届けることを目標としています。

今後も地域の先生方にも研究成果を広く知っていただけるよう、情報発信に努めてまいります。新生児医療のさらなる発展に貢献できればと考えております。引き続きご支援とご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。